

第1原発事故

「イメーヅは東日本壊滅」

吉田調書
全容判明

危機的状況の心情吐露

「人 員全体でもその認識改造や10月の知事選をいかに追える重責が課せられるべきか」として、

報道陣の質問に答える東京電力福島第1原発の吉田昌郎所長（2011年11月12日）



ものがかわった。

「第2原発に撤退したことが第1原発に避難したこと...」

共同通信が入手した調書を吐露している。

吉田氏の証言は他の聴取をめぐっては、朝日新聞が

今年5月、調書などを基に

「所員の9割が吉田氏の待

機命令に違反し撤退した」

と報じたが、吉田氏は聴取

に、命令違反があったとの

認識は示していない。

3号機の爆発で一時、多

くの行方不明者が出たこと

については「四十何人不明

という話で、その時死のう

と思っただ。本当に亡くな

っているなら、腹切ろうと思

った」と語り、作業員の安

東京電力福島第1原発事

故をめぐり、政府の事故調

査・検証委員会が現場の指

揮を執った吉田昌郎元所長

となった事故発生4日目の

2011年3月14日夜を思

ひ起こし「われわれのイメ

ージは東日本壊滅。本当に

死んだと思っただ」と述べる

など、過酷な状況下の心情

【2、30面に関連記事】

政府の事故調査・検証

委員会 東京電力福島第

1原発事故で政府が2011年

6月に設置した第三者機関。知

事務局長を務めた。菅直人元首相

ら事故当時の閣僚や東電幹部が

長に、研究者や法曹関係者ら計

10人で構成。技術顧問のほか、

社をメクス、事故原因 被害

まどめた。

聴取。12年7月に最終報告書を

第1原発から約500人

全を強く意識していたこと

続けた様子が読み取れる。

「た」と語り、作業員の安

覚悟しながらも事故対応を

ているなら、腹切ろうと思

が、時に絶望し、時に死を

る事態に直面した吉田氏

が同時に冷却機能を喪失す

運転中だった三つの原子炉

もっと思い出さくない「本

なんて今までいませよ。

このプラントを判断した人

の中で吉田氏は「こんな三

約40%にも及ぶ調書

えや、あいまいな返答も繰

り返している。自身非公

突き合わせる作業があっ

た。

事故にはまだ未解明の部

分が多く残っている。最前

線にいた吉田氏の証言は重

要な資料には違いないが、

菅直人元首相ら当時の閣

僚、東電関係者たちの証言

と合わせて読んで初めて、真

相が見えてくる。

他証言との突き合わせ必要

報告書をまとめた。報告書

作成の過程では、事故の原

因に迫るため複数の証言を

突き合わせる作業があっ

た。

事故にはまだ未解明の部

分が多く残っている。最前

線にいた吉田氏の証言は重

要な資料には違いないが、

菅直人元首相ら当時の閣

僚、東電関係者たちの証言

と合わせて読んで初めて、真

相が見えてくる。

